

学び合うことの価値

園長 御手洗 竹代

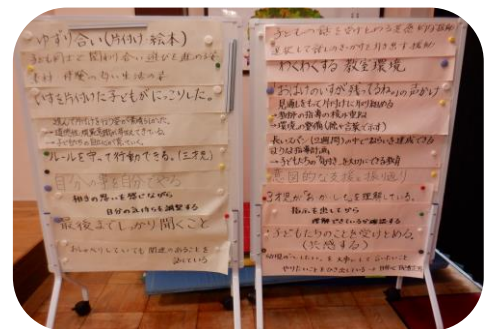
日ごとに、秋の深まりを感じるようになってきました。埋蔵文化財調査が終わった庭は固定遊具がなくなっただけで、とても広々となりました。ドッチボールのコートの隣でサッカーができるのは、今までにないことです。この先は先行工事でもた、塀が立ちますが、『ある場所を使って遊ぼう』の気持ちは変わらずに進めてまいります。

さて、10月16日には明化幼稚園が所属している保幼小中連携第6ブロックの交流会がありました。毎年、輪番で第十中学校・指ヶ谷小学校・林町小学校・明化小学校・さしがや保育園・千石保育園に明化幼稚園が加わった7校園で公開保育や授業を行っております。およそ80名の教員・保育士が集まり、公開保育を見た後、分科会に分かれて感想や指導法について話し合いが行われました。

先生方からの感想でどの分科会からも出てきたのは、「自分たちのしたいことをよく楽しんでいる」「挨拶や片付けなど自分からする」「教材が豊かでたくさんの経験をしていることがよく分かる」などでした。また、指導法については「時間の使い方が緩やかなので、子どもに合わせた指導がしやすい」「ねらいに向かっていくための教材や方法が多様である」「子どもへの言葉の掛け方が共感的である」など幼児教育の特性をよく理解してくださっていることを感じました。

校種や生活の仕方が異なるため、「幼稚園だからできること」として、理解に留まる部分もあるかもしれません。でも、集まった先生方は、「共感的理解は誰が相手でも大切なこと」「幼児期には素材に触れる、自分でやってみることを大切にしていることが分かったので、その先を引き受ける学校としても組み立てを考えたい」「空間の使い方など学校でも工夫できそう」といった、自身の指導に思いを馳せる発言もありました。こうした学び合いこそが、教員・保育士が交流活動をする上で一番大切なことです。

当日は、明化幼稚園の学校運営連絡協議会の委員の皆様もお誘いしてご参加いただきました。保護者の皆様には11月の幼稚園公開を通して、行事ではない日頃の活動の様子を見ていただく予定です。どうぞ、ご都合を付けておいでくださいますよう、お願い申し上げます。



協議会で幼児の姿や指導法をまとめたホワイトボード